

令和5年度 江戸川区立小岩第三中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

<p>学校教育目標</p>	<p>・自他を大切にし、思いやりのある人 ・心身ともに健康で、豊かな実践力のある人 ・積極的に学習し、考えて行動できる人 ・文化や伝統を尊重し、社会に貢献できる人</p>	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p>	<p>目指す学校像…校訓である「公徳」「礼讓」「明朗」な生徒の育成を目指す学校 ～江戸川一面開拓の良き学校～ 目指す生徒像…①自ら考え、判断、行動し、確かな学力を身に付ける姿勢をもつ生徒②規範意識・人権意識を身に付け、豊かな心をもつ生徒③自主性・社会性をもち、地域に貢献する生徒 目指す教師像…①確かな教科指導力・生徒指導力を身に付けるため研鑽を重ねる教師②生徒の将来を展望し、生徒一人ひとりの理解に努める教師③保護者・地域から信頼され、愛される</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p>&lt;成果&gt;学校全体で「心を耕し、身体を鍛え、学力を伸ばす」学校を目指し、健全育成の取り組みを進めてきた。その成果として、心身ともに健康で、思考力・判断力・表現力を身に着けた生徒の育成を進めている。 &lt;課題&gt;授業のユニバーサルデザイン化をさらに進め、効果的な指導方法を授業に取り入れるなど、教科指導法の改善を進めるために研修を積み上げていく。教職員の働き方改革を進め、前年度までの指導を継続・発展させていく必要がある。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・確かな学力向上推進プランの実施 ・学力向上のための放課後補習の実施 ・マイルシードの積極的活用	・全国学力調査で平均の数値を超えられるように学力の基礎を作る。 ・年間150回の外部講師による補習教室を実施する。 ・マイルシードを定期考査の学習に活用する。	B	B	・国語、数学に関しては平均の数値を超えられたが、英語に関しては達成できなかった。 ・予定回数を実施することができた。 ・定期考査学習期間に集中して取り組ませることができた。	B	・生徒が理解しやすい授業をしてほしい。 ・放課後補習教室の参加をより促してほしい。	・研究授業や教科アドバイザーの活用を通じて教員の更なる授業力向上を図る。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・朝読書の充実(3年) ・ブックポスター(2年) ・ブックトーク(1年)	・図書館の巡回指導員より助言を受け、各学年1回以上の読書科(調べる学習等)を実践していく。	B	B	・3年生は朝読書で読んだ本の感想をまとめ、学期ごとに学級内で発表した。2年生はブックポスターを作成して2月に発表を行った。1年生はブックトークを学期ごとに行いクラスで発表を行った。	B	・図書室の整備が進んでいるので良いことだと思う。どんどん活用してほしい。	・巡回図書館職員からの専門的指導を受け、更に図書室の整備と各学年ごとの読書科の取組を進めていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・授業開始時の補強運動	・毎時の授業で5～8分程度の補助運動を実施し、主運動につながる体力を高める。 ・次年度、新体力テストで8割以上の種目で、都・全国平均の数値を超えられるように土台を作る。	B	B	・生徒たちに毎時の補強運動の習慣が身についた。 ・運動意欲が高まっているので、次年度の体力テストの結果を見たい。	B	・スポーツを日常的にやっている生徒もそうでない生徒も体力を向上できるような指導を進めてほしい。	・体育の授業では引き続き補強運動を続ける。また、生徒が興味をもち楽しんで取り組めるダンスなども取り入れて指導をしていく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・校内委員会の設置 ・授業のユニバーサルデザイン化の実施 ・学校だよりの交換を通じた交流	・週1回、時間割に校内委員会を設定し情報共有する。 ・授業のユニバーサルデザイン化について、全学年授業研究を取り入れた研修を実施する。 ・毎月学校だよりの交換を行う。	A	A	・生徒の情報共有が十分に行えており、対応について検討できている。 ・互いの授業を見合い評価をし合ってユニバーサルデザイン化を推進している。 ・毎月発行ごとに学校だよりの交換ができています。	A	・必要な取り組みができていると感じる。 ・ユニバーサルデザインは必須だと感じるので今後も進めてほしい。	・現状良好なので継続していく。 ・ユニバーサルデザインについて、全教職員が意識をもち実践できるよう引き続き推進していく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・いじめ対策委員会の設置 ・学習ボランティア、ステップサポーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、別室登校支援員との連携による不登校支援、 ・hyper-QUを各学年で実施する。	・週1回、いじめ対策委員会のメンバーを含む生活指導部会にて、情報・指導方針の共有を行う。 ・別室(スマイルルーム)を整備し、教室に入れない生徒が別室指導支援員の支援を受けられるようにする。 ・hyper-QUを1、2年生は年に2回、3年生は1回行い、学級学年経営に生かす。	A	A	・定期的な情報交換により、いじめの兆候の早期把握と対応ができています。 ・教室に入れないので登校できないという生徒がスマイルルームに登校できるようになった。 ・hyper-QUの結果を分析し学年内で共有した。	A	・取組が進んでいてとても良いと思う。 ・教室に入れなくても学校に行けるようになるのはとても大切なことと思う。	・いじめ対応、不登校対応とも組織的に対応できているので維持していく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・各学年にホームページ担当教員を配置し、日々の出来事を発信する。 ・教務部を中心に計画を立て、授業内容の検討をし、PTAの協力も得ながら実施する。また、来校者、教職員の事後アンケートの意見を反映し、次の計画に生かす。	・給食情報は毎日、全校・学年行事についてはその都度更新する。 ・年間3回の学校公開を行い、その都度次回、次年度の改善につなげる。	B	B	・時々遅れることはあったが更新できた。 ・年3回の学校公開は円滑に行うことができた。	B	・更新の回数をふやしてほしい。 ・学校公開のときに時間割を事前にテールで知らせてほしい。 ・授業が落ち着いて受けられているのがとても良いと思う。	・学校HPIについては更新内容、回数ともに改善していきたい。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会の設置 ・生徒、保護者、学校評議員による学校評価の実施	・年2回学校評議員会を実施し、情報交換を行い、その都度学校評価を実施する。 ・生徒、保護者の肯定的回答が8割以上。	B	B	・各回とも、生徒が落ち着いて授業を受けている様子を高く評価していただいた。 ・生徒、保護者のアンケートは二学期末に実施する。	B	・生徒が落ち着いて授業を受けているのを見て安心している。	・引き続き学校関係者や保護者の意見を聞き、改善できる部分は改善し、肯定的意見が増えるよう努める。
特色ある教育の展開	<「学校における働き方改革プラン」> ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・業務量の適切な管理 ・「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に従った活動時間の管理	・月の時間外勤務が80時間を超える教員を前月より減らす。 ・週の活動時間を16時間を超えないようにする。平日1日、週休日1日の休養日を設定する。1日の活動時間は学期中は3時間以内、長期休業中は4時間以内とする。	B	C	・80時間以上の時間外勤務は減らすことができたが、定時退勤はほとんどできていない状況である。 ・部活動についてはガイドラインに沿った運営をし、外部指導員を依頼して教員の負担軽減をしている。	B	・勤務時間にめりはりをつけて働き方改革を進めてほしい。	・行事や業務の精選を進め、教職員の負担軽減に努める。